

地域母子保健福祉情報紙 No.290

公益社団法人 母子保健推進会議

親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的（抜粋）
 国及び地方自治体
 関係諸団体と連携協力して
 母子保健の重要性を啓発し
 母性の健康を守り たかめ
 心身ともに健全な児童の
 出生と育成に寄与してまいります

健やか親子 21
 全国大会によせて

今、求められる伴走型支援とは

令和 7 年度「健やか親子 21 全国大会」が開催されますことに、こころからお慶び申し上げます。コロナ禍から研修等はオンライン、ハイブリッドで行われることが増えてきましたが、今回、各種表彰式は対面、集会等はオンラインでの開催になります。みなさまが多く情報を得られますことを願っています。

相談支援体制の強化のために

児童福祉法等の改正により、昨年度から母子保健と児童福祉等が連携して取り組むこども家庭センターが設置され始めました。こども家庭センターは「虐待への予防的な対応から個々の家庭に応じた支援の切れ目のない対応など、市町村としての相談支援体制の強化を図る」とされています。相談支援体制の強化の一つとして、今年度から妊婦のための支援給付と妊婦等包括相談支援事業が開始されました。前者は子ども・子育て支援法に、後者は児童福祉法に位置づけられています。

前者は令和 4 年度の補正予算で、出産・子育て応援交付金として開始されたものです。妊娠期から支援が必要と支援者が考えても、なかなか会えない方には、この交付金を支給するチャンスはとても良い機会でした。今年度は給付金となりましたが、自治体は給付しなければならず、受け取る当事者はいわば権利の行使ですので、ここに面談が必要などの条件付けはできなくなりました。ある自治体では、ホームページに「保健師等との面談のご協力をお願いします。」と書いています。面談をして信頼関係をつくりたいという当事者へのメッセージだと思います。こどもが生まれる前に会うことにより、困難が起こる前の予防的な支援を行うことができます。

後者は、令和 4 年度の補正予算の説明資料では、「SNS・アプリを活用したオンラインの面談・相談、プッシュ型の情報発信、随時相談の実施」と書かれていて「伴走型支援」となっていました。児童福祉法では

妊婦等包括相談支援事業となり、説明資料では「妊婦・その配偶者等に対して面談等により情報提供や相談等（伴走型相談支援等）

を行う事業」と書かれ
 佐藤 拓代 会長
 ています。事業は、実施自治体は体制が整わない等の事情で実施時期や内容が異なっており、給付金とは考え方が違います。伴走型支援は事業実施者が考える伴走で、当事者の妊産婦等がイメージする伴走ではないのかもしれませんが。

健やか親子 21 全国大会の「母子保健推進員等及び母子保健関係者全国大会」では、シンポジウム「今、求められる伴走型支援とは」を行います。こども家庭庁からの母子保健施策の動向につづき、佐藤の基調講演、自治体からの報告があります。大会での現地開催はできませんが、オンラインの収録場面では多くの関係者にお集まりいただき、意見交換ができればと考えています。

妊産婦等の自己責任にしない、お節介支援として伴走型支援を行いたいものです。

公益社団法人 母子保健推進会議

会長 佐藤 拓代

今月のページ

健やか親子 21 全国大会によせて 今、求められる伴走型支援とは	1
令和 7 全国大会被表彰者功績紹介	2
「8020の里賞(ロッテ賞)」今年度のキーワードは連携、継続、新規性	9
紙上セミナー：8020の里づくり 「茶色の歯を見つけたことはありませんか？」	
8020ひとくちメモ「こどもの歯ぎしりについて」	10
「健やか親子 21 全国大会」併設本会議全国集会、今年度はオンラインで／「気持ちに寄り添うスキルアップセミナー」のご案内	12

令和7年度「健やか親子21全国大会（母子保健家族計画全国大会）」において、地域で母子保健の向上のために、それぞれの専門性や立場で長年尽力され功績をあげられた方々に対して、その労苦に敬意と感謝の意を表するため「公益社団法人母子保健推進会議会長表彰」とさせていただきます。

本稿では、表彰を受けられる個人56名と4団体の功績の一端を紹介する。なお、紙面の都合により以下のとおり省略する。昭和=S、平成=H、令和=R、母子保健推進員=母推

※功績紹介にあたっては推薦依頼時に了承を得ています。

個人の部

【岩手県】菅原奈保子（保健師）市保健師として29年の永きにわたり、母子保健事業の充実及び発展に尽力。母子健康手帳交付時からの妊産婦の健康づくりと出生後の母子の健やかな成長のため、歯科衛生士や栄養士とも連携しながら活動し、市内の産科医療の現状把握と連携強化のため北上市母子保健医療連絡会の立ち上げに尽力。R3年からは親子保健係長、R6年からはこども家庭センターの総括支援員として、母子保健機能の充実、児童福祉機能のマネジメントに力を注いでいる。

【岩手県】高橋留美子（栄養士）H12年旧湯田町に採用され、乳幼児健診や育児学級に従事。また食生活改善推進員とともに中学生への郷土料理の普及事業や、保育園年長児と保護者向けに親子クッキング事業を開始するなど、食の重要性を広め、地域の伝承料理の普及にも努めた。H23年度から公立保育所の給食献立作成を担当し、アレルギー職に配慮し「噛む」ことに重点をおいたメニューづくりを行う。給食調理員や民間保育園の栄養士とも定期的に検討会を開催。H26年度には各学校や施設の栄養士と連絡会を設立し「栄養の専門職」として共通の課題解決への取り組みに尽力。

【宮城県】岩田和子（看護師）入庁後、乳幼児健診や予防接種事業に従事。R2年度の「第2期

56名と4団体のみなさまに

利府町子ども・子育て支援事業計画」策定では、子育てをめぐる環境変化に対応した施策を推進し、親子が安心して成長・産み育てられる環境づくりに尽力。要保護児童対策地域協議会の運営において各関係機関と連携・協力を図りながらし中心的な役割を果たし、要

保護児童や保護者の支援にあたる。子ども家庭センターでは統括支援員として指導的な役割を担い、自らも細やかな支援を行う。地域の母子保健・子育て支援の充実に長年貢献した功績は顕著。

【秋田県】菊地摩貴子（保健師）H16年度に4歳児健診、H21年度には5歳児健診を開始。官民の枠組みを超えたネットワーク体制の礎を築く。H17年度には幼児・児童のフツ化物洗口事業を開始し、市の12歳の1人当たりの歯本数が大幅に減少。R2年度には新型コロナウイルス感染症の疑いのある方が安心して受診できる仮設診療所の設置に尽力。県、市医師会と連携しスタッフの研修を行うなど、安全な実施に努めた。地域・保健・福祉・教育・医療のネットワークを形成し顔の見える連携を実施。行進の育成にも尽力し、母子保健、公衆衛生の向上へ寄与した。

【茨城県】吉田輝代（母推）H17年から20年間にわたり母子保健推進員、H23年から2年間は会長を務め、子育て世代の相談役として活躍。母子保健事業や健康まつり等の市の主催行事においても、子育て情報の提供や事故予防講話など啓発活動を積極的に推進するなど、長年にわたり市の母子保健事業に尽力している。乳幼児相談時には、誤飲による窒息や中毒を防ぐためのチャイルドマウスを配布し、事故予防啓発に努めた。

【栃木県】鈴木祐美（保健師）入職当初は保健所にて乳幼児二次健診や親子教室、地域特性を踏



昨年度鹿児島県での全国大会式典

まえた療育システムの構築に寄与。H14から管内の高校を周り相談に応じ、H18から精神疾患を有する中高生等の家族を対象とした教室を親切するなど思春期のメンタルヘルス支援を行う。H24から自傷や希死念慮のある中高生の相談に応じ自殺対策に寄与。R2に障害者総合相談所の担当課長として、発達障害児者の支援体制強化に寄与。障害福祉課では医療的ケア児支援センター設置に尽力。R6年には県こども政策課の母子保健担当リーダーとして地域で子育てをする機運の醸成、切れ目のない母子支援の強化、プレコンセプションケアの普及を図るための事業の立ち上げに貢献した。

【栃木県】小倉優子（保健師）子育て世代包括センター業務を通じ、妊娠期から子育て期に至る相談支援体制を推進した。足利市初の統括保健師となり、災害時の対応や保健師のキャリアラダーの活用について構築。出産子育て応援交付金の開始時には、給付と伴走型支援の制度を築くとともに、子育てアプリを導入。こども家庭センター設置初年度のR6年、市初の統括支援員となり、サポートプランやケース会議の有り方など基盤を整備した。R7年、新規事業である「こどもの居場所づくり」を担当、実現に向けて取り組む。

【埼玉県】中馬眞理子（歯科衛生士）5市町の1歳6か月児・3歳児の乳幼児歯科健診及び妊産婦の歯科健診、10か月児・2歳児健診、乳幼児歯科相談、成人歯科健診など献身的に努める。S60

心よりお祝い申し上げます

年から現在まで保育園の歯科指導や小学校の保健歯科指導活動においても、園児や児童のう蝕・歯肉炎予防推進に尽力。学童及び障害者施設訪問事業や、口腔衛生週間事業、健康まつりなどイベントにも参加し、地域のむし歯予防普及や公衆衛生保健の向上に貢献している。

【千葉県】根岸雄子（助産師）H19年に助産院を開業し、妊娠・出産から子育てまでの一貫した支援を行う。地域の母子保健を支える拠点として行政とも連携し、特定妊婦の出産や生活扶助が必要な母子への医療支援に携わる。小中高校・特別支援学校で出張講座を実施し、自己肯定感を高く思春期教育活動にも尽力。地域の母子保健推進協議会委員や千葉県産後ケアアドバイザー、県内各市の産後ケア事業、乳幼児健診相談業務などを務める。県助産師会においても会の運営や地域の母子ケアの充実に寄与している。

【千葉県】碓井愛子（母推）母子保健に熱意がありボランティア精神に富んでいることから、H13年に区長の推薦により母子保健推進員となる。協議会では副会長・会長を歴任し、基盤づくり・発展において長きにわたり寄与。「こんにちは赤ちゃん訪問事業」では母子と行政のパイプ役として活躍し、推進員による家庭訪問の体制充実に努めた。マタニティサロンや幼児健診、多胎育児家庭

サロン、ブックスタートなどの事業に積極的に協力し、子育てしやすい地域づくりに尽力している。

【神奈川県】田中信孝（医師）厚木医師会ががん検診担当理事を長期に務め、産婦人科医会長としても子宮・肺・乳房・胃・大腸の5がん検診総合の受診率を一時的に県1～3位に引き上げた。日本産婦人科医会の県代議員になった後、社会問題となった子宮頸がんワクチンの誤解を解き接種率上昇を目指すため、著名な講師陣を招聘してのディスカッションや行政への協力の呼びかけも現在まで継続実施。文科省が実施したモデル事業で、学校医が参加する取り組みの産婦人科担当となった。当該事業は厚木市で継続しており、「少子化対策は教育から」を実践している。

【神奈川県】川邊康子（助産師）自治体病院で30年にわたり勤務し、産婦人科・小児科病棟棟長を務めた。多くの妊産婦の健康指導や出産に立ち会い、生活に課題を抱える対象についても県や平塚市と情報交換・連携して、適切な介入がなされるようサポートしてきた。小児科病棟では家族支援に力を注いだ。県看護協会では助産師職能委員として、県内の助産師の能力向上に寄与した。現在は横浜市内の産科医療施設において産後ケアを担い、母子および家族に対して必要な支援をタイムリーに提供している。

【富山県】酒井照枝（助産師）県内中核病院で長く周産期の母子保健・母性看護の向上に寄与。15年間看護部長を務めた県立病院では、ユニセフ・WHOの「赤ちゃんにやさしい病院（BFH）」の認定を目標にチームをまとめ、リーダーシップを発揮。県看護協会助産師職能委員として小中学校でのいのちの授業の開始に尽力。NICUでの看護の質の向上を目的として、NICU協議会の設立にも寄与。H27年に助産院を開業し母乳育児相談や産後ケアモデル事業の一旦を担う。サークル活動など地域の母子保健向上に貢献。

【富山県】金谷潤子（母推）H5年度から滑川市の母子保健推進員として、妊婦や乳幼児とその母親の家庭を訪問し、地域と行政をつなぐパイプ役を担ってきた。「こんにちは赤ちゃん訪問」では、母親に寄り添ったアドバイスで孤立化の予防に寄与。R2年度からは母子保健推進員協議会の新たな活動として、乳児期からのむし歯予防への取り組みとして紙芝居を作成し、親子の健康づくりの一端にも役立つ活動へと発展。R3年度からは市協議会会長として統率力を発揮し、市の母子保健の向上に大きく貢献している。

【石川県】松川由美子（母推）保育士として長年勤務の後、旧松任市（現白山市）の母子保健推進員として委嘱され、22年にわたり活動。委嘱された当時は「母子相談」を担当し、母親や乳幼児を支援し、地区の母親と市のパイプ役として活躍。3歳児健診の受付なども率先して協力。地域住民



お口の恋人
LOTTE

むし歯のない社会へ。
ロッテ キシリトールガム

もっとおいしく、歯を丈夫で健康に。キシリトールの世界が広がりました。
大切な歯のために、キシリトール習慣！

消費者庁許可 保健機能食品（特定保健用食品）（公財）日本学校保健会推薦（一社）日本学校歯科医会推薦

食品初！ **日本歯科医師会推薦商品** **XYLITOL®**

www.lotte.co.jp
かんだ後は包んでくずごへ。

に対しては、乳幼児健診や予防接種など市の各種母子保健事業への参加を呼び掛けるなど啓発に努め、地域の母子保健向上に貢献、住民の信頼も厚い。

【石川県】 山内要子（母推） H17年より白山市の母子保健推進員として活動。旧鶴来町においてH9年からH16年、保健センターにて育児クラブ活動を支援するとともに、入園前の親子のふれあい遊びを通じて、仲間づくりの橋渡しなど、子育て支援を続けてきた。現在は10か月児相談、母子相談、1歳6か月・3歳4か月児健診などの受付、身体計測の補助の協力の一方、市民目線から行政と市民をつなぐ役割を担い、地域での啓発活動にも尽力され、今後も活躍が期待される。

【福井県】 山下照子（保健推進員） 河野村（合併後は南越前町）保健推進員としてS63年より活動し、乳幼児健診や教室に永年従事。看護師で長年医療に携わり、保健推進員としての資質が高く、町村合併後の保健活動についても行政と他の推進員との橋渡しを行うなど柔軟に対応し、現在の活動の礎を築く。H28年には保健推進員会代表を務め、町の保健事業「がん予防スタートプロジェクト」でも創設時からリーダーシップを発揮。民生委員児童委員や日赤奉仕団委員を務めるなど、母子保健を含む地域活動の功績は顕著である。

【福井県】 横山美鈴（母推） 母子保健推進員として現在まで累計20年間、育児相談や幼児健診の受付、計測・記録等を行ってきた。研修に積極的に参加して学んだことを活かし、育児相談の待ち時間に絵本の読み聞かせや手遊びをしながら、親

子のふれあい遊びを推進。幼児健診では子どもたちに頑張ったご褒美として折り紙のおもちゃを渡し、やさしく声かけをしている。坂井市母子保健推進員会長時代には全体活動について検討し、積極的に意見を出し、とりまとめを行った。

【山梨県】 松浦照子（助産師） 北斗市にて助産院を開院し、110例を超える自宅分娩を通じて、妊娠・出産・育児に継続的に支援をしてきた。H28年、県内初となるオープンシステム分娩を開始し、地域の医療機関との協力体制を築く。北斗市ネウボラ課保健師と開業助産師との連携連絡会議に10年参加し、市の母子保健の現状や今後についての検討、開業助産師の関わりのある母子の情報交換等、地域に密着した母子支援に尽力。昨年は全国的にも珍しい取り組みとして、行政と共同で北斗市助産院マップを完成させた。

【岐阜県】 元吉史昭（医師） 土岐市立総合病院予防接種外来において、乳幼児から中学生対象の定期及び任意予防接種を担当。加えて、リハビリ（言語・理学・リハビリ）部門と連携して小児期の神経発達症の支援と療育に携わる。日常の外来と入院診療、学校検診を介しての精密検診、休日夜間の2次救急医療への参加など、多岐にわたる業務に従事。土岐市学校給食センターの食物アレルギー対応食判定会議委員や研修会の講師も担当。2020年まで同病院で小児科部長・院長代行を務めた。現在も小児科嘱託医として地域の子どもの健康のために多角的に尽力。

【岐阜県】 伊藤智美（歯科医師） クリニック開設以来、地域に欠かせない「かかりつけ歯科医院」として子どもたちの健やかな歯・口腔の成長に尽力。市町村が行う乳幼児・妊婦歯科健診や妊産婦歯科相談に積極的に携わる。女性歯科医師の会の創設者の一人として、女性歯科医師や歯科医療従事者が仕事と子育てを両立・支援する活動にも精力的に取り組み、勤務環

境改善に尽力。県口腔保健センター障害者歯科診療所の診療担当委員や県歯科医師会の学術委員を各2期務め、歯科保健活動の充実、公衆衛生の普及に多大に貢献。

【愛知県】 野口弘美（保健師） 小牧市の親子の課題を抽出し、対応策を協議・連携する場として市母子保健推進協議会の設置に尽力。妊娠中から中学3年まで記録できる親子健康手帳や、子の成長を親も一緒に確認する乳幼児健診といった市独自の事業を実施した。保健センターと学校が協働して「いのちと生き方を大切にする」「自己肯定感を高める」等の内容でカリキュラムを作成し、小中学生や保護者に伝えた取り組みが、H19愛知県公衆衛生研究会にて優秀賞。自己肯定感についてのDVDを作成し、日本公衆衛生協会の衛生教育奨励賞を受賞。5歳児健診実施にも尽力。

【三重県】 落合加代（保健師） 津市保健センター勤務時代、中学校・看護大学と協働で中学生の骨密度測定と健康教育を実施。保護者対象や地域での測定会も実施し、地域で共通の健康課題を考える体制を構築。市健康福祉部健康づくり課にて、健康づくり計画の策定や小中学生の朝食の欠食率の改善、妊婦歯科健診の実施に向けた医師会との協議に従事。こども家庭センターの設置に伴い母子保健担当として、児童福祉と母子保健機能との連携に尽力。R7年健康づくり課長として、産後ケア事業拡充や5歳児健診の実施に向け尽力。

【滋賀県】 丸尾良浩（医師） 滋賀医科大学医学部附属病院にて小児科専門医・認定指導医として、小児内分泌・代謝や体質性黄疸を専門に県下の病院と連携して長年診療。R6年からは滋賀県健康医療福祉部と協力し、移行期医療を総合的に支援する滋賀県移行期医療支援センターを附属病院内に開設し、そのセンター長も務めている。滋賀県周産期医療等協議会委員をはじめとして滋賀県母子保健推進会議委員など、医学的助言を継続し地域の子どもの健康やかな成長に寄与。

【滋賀県】 田村早苗（助産師） 総合周産期医療



会場ロビーでの展示



令和6年度大会における表彰状の授与

センターにて妊娠・出産・産褥期の支援および看護学生の実習指導に携わる。H18年から県助産師会が運営する子育て・女性健康支援センター相談員として年間約500件の相談に真摯に対応。加えて孫育て講座、双子の妊婦と家族の会などで講師を務め、また定期的な研修会の企画運営等も行う。H24年からは県助産師会の理事として会の運営に尽力。大学・専門学校の臨床実習としては看護・助産師学生へ助産師の意義・歴史・役割・活動内容を伝え、後輩育成にも多大に貢献。

【大阪府】松浦洋栄（助産師）貧困等生活上の課題が多い地域の病院勤務経験から、H12年頃より病院から出向くアウトリーチ活動を開始。10代で出産した親子に特化して、そのニーズや強みを見出し他者と繋がり合える関係づくりに努めた。10代で出産した親子が集える会を10年間運営し、参加者と共に10代妊婦に向けた冊子「産みたいあなたへ」を作成・配布。また、地域の小中高校で教職員と連携した「いのちの性教育」を实践。虐待回復支援プログラムにも携わり、虐待第三次予防に力を注いだ（後に大阪府で事業化）。

【岡山県】松多恵美子（愛育委員）S62年に愛育委員として選任され、H9年より地区の愛育委員会副会長として組織運営にも携わる。こんなに赤ちゃん事業では訪問ボランティアとして8年余活動。おやこクラブとの交流や育児相談などにも継続的に携わり、地域で子育てする親子が安心して暮らせるよう、関係づくりや子育て情報の提供等に注力している。献身的な働きぶりと温厚な

人柄から、地域住民からの信頼も厚い。

【広島県】西田啓子（助産師）神石高原町の母子保健事業に精力的に尽力。毎週助産師相談日を設定し、妊娠期から出産後の個別およびグループ相談を実施し、安心して出産を迎えられるように支援。各家庭に応じた柔軟かつ確かなサポートを続けている。発達支援システムの立ち上げに際し専門職として助言し、

その後も継続的に携わる。保育士や地域子育て支援拠点のスタッフ等を対象に、乳幼児との関わり方や支援方法について研修を実施するなど、子育て支援に関わるスタッフの資質向上にも貢献。

【山口県】大草律子（母推）H19年より長門市の母子保健推進員として活動。地道な訪問活動を通し母親の身近な相談役となり、育児不安の解消、健診や予防接種の声かけ、児童虐待の早期発見など行政とのパイプ役として、長年にわたり地域の母子保健の推進に寄与。また、母親や子ども同士の交流を提供する子育て輪づくり活動を積極的に展開し、安心して子育てができる環境づくりにも努めている。長門市母推協議会会長、山口県母推協議会理事を務め各協議会の運営・発展にも寄与。

【徳島県】伊井由美子（歯科衛生士）歯科医院、行政勤務を経て在宅歯科衛生士として長きにわたり母子保健事業に携わり、地域に根差した活動を実践。保育所・幼稚園・小中学校等での講演や歯科保健指導、親子を対象としたイベントでの指導や相談、母子保健事業への参画など幅広く活動し、創意工夫された指導内容は好評。特に美馬市では母子への歯科指導に尽力し、3歳児健診でのう蝕有病率、平均う蝕数ともに減少。妊婦やパートナーへの歯と口の健康意識の向上にも努め、公費での妊婦歯周病検診開始につながった。

【香川県】岡松和代（母推）H23年に丸亀市母子保健推進員に委嘱され、地域ぐるみで子育て支援をすることに強い関心を持ち、研鑽に努めた。特に妊娠後期の妊婦や産婦、転入してきた家庭の

乳幼児を中心に家庭訪問を行い、身近な地域の子育て情報を提供し、心配なことがあれば市の保健師に繋ぐなど行政と住民のパイプ役として活動。親子のスキンシップを図りながら歯みがきの前段階として「乳児期から始めるおくちのマッサージ」を作成し、積極的に啓発している。

【愛媛県】黒川由美（保健師）1歳6か月児健診で発達障害のマススクリーニングM-CHAT（新居浜版）を導入。民生児童委員と連携した子育て支援ネットワーク事業、地域子育て支援拠点や歯科医師会との協働事業などを実施し、子育て支援機関等との連携強化を図った。H30年に子育て包括センターの開設に携わり、妊娠期から周産期にわたる継続的な支援体制整備に貢献。R5年度に地域子育て支援拠点事業や利用者支援事業、一時預かり事業、要対協の調整機関としての業務等に携わり、こども家庭センターの立ち上げにも尽力。

【愛媛県】谷口美穂（保健師）S63年旧日吉村（現鬼北町）に入職。顔の見える関係性や生活場面での支援を大切に、訪問・相談活に従事。また乳幼児健診の充実および療育センター・教育委員会・保育所等と連携した健診前後のフォロー体制を築き、継続した支援の構築に寄与。思春期保健相談員を取得し、高校等で相談・性教育等を行う。H27年5歳児健診、自閉症スペクトラム障害のスクリーニング開始、R2年子育て世代包括支援センター設置、R6年こども家庭センターへ移行等を中心的に行う等、母子保健事業に広く貢献。

【佐賀県】木村恵津子（母推）地域における妊娠期から出産・子育て期までの切れ目ない支援活動の一環として、赤ちゃん訪問だけでなく妊娠中から活動紹介のための訪問を行い、継続的な関係の構築に尽力。地区の乳幼児の子育てサロンにも出向き、積極的に接する機会を設けている。市の乳幼児健診等の事業では、親子への声かけや同伴きょうだいの相手など、健診時の保護者の負担軽減や不安解消に努める。23年にわたる活動は他の母子保健推進員の模範となっている。

【佐賀県】廣岡佳子（母推）H22年度より活動。7か月児のいる家庭への訪問活動においては、乳児健診や育児教室のお知らせ等の声かけを行うほか、親子遊びの冊子や発達に関するパンフレットを選定したり、歯ブラシやタオルハンカチなどの品を持ってアドバイスや相談対応に当たっている。H28～29年度に鳥栖市母子保健推進協議会監事を担当し、その後R2年度から現在まで同地区理事を務めるなど、協議会の運営にも率先して携わる必要不可欠な人材である。

【佐賀県】岸川洋子（母推）H15年から活動。赤ちゃん訪問では育児不安や孤立を予防することに尽力。神埼市のイベント・健診事業では細やかな気遣いと明るい人柄で、地域で安心して子育てができるとしてもらえるような雰囲気づくりを行ってきた。H26～28年度、母子保健推進協議会の会長、H27年3月から2年余は市要対に従事するなど、長きにわたり、母子保健に関して様々な役割を担う。子育て支援に貢献。

【佐賀県】川島寿子（母推）保育士としての経験から、こどもには個人差があること、乳幼児期の親子関係が児の人格形成や成長に影響することを理解しており、母親の身近な相談役として育児不安や孤立予防のため積極的に尽力。学校地域連携コーディネーターとして中学生向けに乳幼児とのふれあい体験を企画し、乳幼児と接することが少ない生徒たちに、子育ての喜びや命の尊さを感じる学びの機会をつくった。また20年以上乳幼児から小中学生を対象に読み聞かせの活動も行う

など、多方面から切れ目のない活動に尽力。

【長崎県】中村由美子（母推）看護師資格を有し、自身の育児など豊富な経験を活かして30年以上母子保健推進員として従事。時代の変遷に柔軟に対応し、それぞれの親子へ細やかな支援を行う。さらに、乳児の足形を取ったり、布製おもちゃを作成しプレゼント。また乳児全戸訪問では乳児の成長や母親の産後の生活を把握し、不安や悩みに寄り添ってきた。乳幼児健診・相談実施の事業協力でもスムーズな実施の一役を担う。親子が住みよい地域となるよう日頃より努力を重ね、母子保健の向上に貢献。

【長崎県】柴山延子（母推）離島地区の母子保健推進員にH26年から活動、母子健康相談や赤ちゃん訪問など市の母子保健事業に積極的に協力・従事。日頃から島内の子育て家庭について良く把握しており、身近な相談者として寄り添った活動をしている。市の保健師等と連携して家族支援をするなど、地域の母子保健の推進に尽力しながら、一時期は民生委員・児童委員も兼務するなど、市民や行政から厚い信頼を得ている。

【宮崎県】原田和子（母推）保育士として培った専門的知識と自身の子育て経験を融合させ、H18年より現在まで他の母子保健推進員の模範として活動。家庭訪問では育児の不安やストレスを抱える母親の相談相手として寄り添い、行政とも密に連携を図っている。現代の育児環境の変化にも柔軟に対応し、母親を温かく受け留め、多くの母親から信頼を得ている。地域こども会や更生

保護女性会のメンバーとしても活動。地域全体のこども達の成長を見守っている。

【宮崎県】岩屋ヶ野秀子（母推）自らの子育て中から活動を始め、現在に至るまで42年間、「子育て中の母親の力になりたい」という思いで母子保健推進員の活動を続ける。子育てで世帯をとりまく環境が変わる中、

その変化に応じた母親の悩みに向き合い、R6年度の活動は、家庭訪問と幼児健診受診勧奨を合わせて88件であった。ほか1歳6か月児健診の計測補助として毎回参加、年1回の研修会に毎年参加するなど、後継者の育成にも貢献している。

【沖縄県】新屋敷成子（母推）38年にわたり母子保健推進員として乳幼児健診、2歳児歯科検診、赤ちゃん訪問、未受診者の受診勧奨訪問などの活動を積極的に行う。母子保健推進員協議会でも理事や副会長を複数年努めるなどまとめ役として活躍し、豊富な経験を活かした後輩への助言者ともなっている。民生委員・児童委員として地域福祉にも熱心に取り組むほか、自治会、女性連合会、小中学校のPTA、地元保育園の評議員や第三者委員、老人会と幅広く活躍。

【沖縄県】國吉綾子（歯科医師）H9年度より嘉手納町独自のニコニコ歯科健診事業。H21年度よりフッ化物塗布助成事業に計画から実施まで携わり、町内保育園でのフッ化物洗口事業等、町の乳幼児の歯科保健に尽力。成人期の歯周病疾患検診事業にも携わり、乳幼児のむし歯有病率の減少や成人の歯周病疾患予防など歯科保健の充実、公衆衛生向上に貢献している。嘉手納町健康増進計画・嘉手納町食育推進計画「嘉手納町健康・食育かでな21」の策定においても、幅広い視点から、嘉手納町健康づくり協議会委員として活躍。

【仙台市】針生利志子（助産師）H11年から現在まで市妊産婦新生児訪問指導員、H17年からR2年まで市養育支援訪問事業専門指導員として、児の保護者に対して、慣れない育児の不安などの気持ちに寄り添い、丁寧で適切な指導により負担感の軽減、虐待予防に大きく貢献してきた。地域においても子育てボランティアとして18年余相談に応じるなど、積極的な活動により区内の子育て支援およびネットワーク構築に寄与した功績は多大である。

【さいたま市】永井敏子（保健師）保健センタ部門で母子保健業務に多く従事し、精神疾患



乳児家庭全戸訪問で



令和 6 年度全国大会併設集会のシンポジウム

を持つ母親や、児童相談所へ通告が必要なケースにもアセスメントしながら対応。コロナ禍で健康危機管理と合わせた対応が求められた期間、要対協登録のケースを多く受け持ち、積極的に家族支援を行った。R6年度区にこども家庭センターが設置され、保健センター所長として統括支援員を担い合同ケース会議の開催を調整し、児童福祉部門との連携体制の構築に取り組むなど、親子の健やかな育ちに大きく貢献。

【千葉市】薄井良恵（地域保健推進員）H15より活動。地区担当保健師と密に連絡をとり、生後2か月の赤ちゃんのいる家庭訪問を実施。子育て不安を抱える保護者に熱心に寄り添い、必要時は迅速に行政と連携。地域の親子に子育てサロンへの参加を呼びかけ、保護者同士の交流を促進。H31まで千葉市青少年補導員・育成委員会に所属し活動し地域からの信頼も厚く、千葉市青少年育成功労者や千葉市青少年補導員表彰も受賞。23年にわたるきめ細やかで地域に根差した活動は母子に安心感を与え、保健所長や市長からも感謝状を贈呈されている。

【新潟市】須貝亜希子（助産師）産後母子訪問、出産準備教室、育児相談会、股関節健診（2～4か月児集団健診）で母体保護相談等、地域の母子支援に従事。助産院で出産介助、産後ケア等実施。インファントマッサージ・マタニティヨーガ指導者としてクラスも企画。市助産師会で貢献、日本助産師会助産師部会委員として全国の助産所の安全管理、助産業務ガイドライン改訂、大学生に向けプレコンセプションケアを実施。専門学校で母性看護実習指

導を担当、コロナ禍で実習が制限される中、母子支援を学ぶ指導を実践。R5～市西区役所にてマタニティナビゲーターとして年間約200件母子手帳交付時面談や相談を行うなど多岐にわたって母子保健の向上に貢献。

【浜松市】木下光代（助産師）産婦人科外来・病棟で保健指導、300件余の分娩介助に携わる。H19年～助

産所開設、親子健康手帳交付や子育て支援ひろばでの妊婦支援、こんにちはマタニティ訪問、こんにちは赤ちゃん訪問、養育支援訪問事業等、市の母子保健事業に従事。H25年から「いのちの出前講座」講師を務め、命の大切さを伝え、自己肯定感を高める活動にも注力。H30年から妊娠SOS相談・はままつ女性の健康相談にも従事。H26年からR6年市助産師会保健指導部部会長、H30年からR6年県助産師会保健指導部副部会長・R6年から同部会長として幅広い活動で地域に貢献。

【名古屋市】長沼裕子（保健師）H8年より保健所や市、児童相談所にて母子保健事業を推進。H21～23年度「保健所における児童虐待対応の手引き」改訂、乳幼児健診未受診者対応の強化を検討。R1年度子育て世代包括支援センターの効果的な運用を検討。市社会的養育推進計画策定ワーキンググループに参画し、計画に母子保健施策を位置づける。多胎妊婦健診、新生児聴覚検査開始。大学と不育症相談の共同研究を行い、不育症検査費用助成事業開始。「小児慢性特定疾病相談支援マニュアル」作成、区と保健センターの連携を推進。コロナ禍では分娩前COVID-19検査事業、感染した妊産婦への寄り添い型支援事業実施等その時々に応じた母子保健の、向上に広く貢献。

【神戸市】四ッ谷友紀子（助産師）H2年から病院産婦人科勤務後、H14年からR4年助産院勤務時より長年性教育に携わり、大切ないのちをいかに生きるかをグループで考えを共有しながら実施し、性教育グループ「いのち語り隊」で活動。

H17年から市助産師会性教育部門にて思春期性教育事業の講師等として活動。R2年から5年同部門長として事業の質の担保や後進を育成。特別支援学校での性教育は指導内容や媒体を工夫、R7年から不登校の支援学校でも実施。H30年からR5年は、県助産師会安全対策委員に任命される。R4年から（公社）小さないのちのドアにて思いがけない妊娠の相談事業、妊産婦の居場所づくりなどライフステージごとの支援に尽力。

【高崎市】内山美奈（母推）H18年から市母子等保健推進協議会にて21年にわたり活動、町内や地区にて市と子育て家庭を繋ぐ役割を果たす。乳幼児訪問や地区活動、推進員の活動PRを兼ねた乳幼児健診や教室に協力する中で、H22年から中央地区代表。H27年から会員531人を抱える協議会の副会長として会の運営に貢献、市健康増進計画推進委員会、市子ども・子育て会議へ出席。自身の子育て中にはPTAの本部役員、地域の防火女性クラブや公民館運営推進委員として携わり、責任感及び顔の広さ、リーダーシップを発揮し地域に貢献。

【船橋市】栗島寿恵（助産師）S58年から病院勤務後、H7年から県助産師会入会。H9年から船橋市妊産婦・新生児訪問指導員、ママ教室や乳幼児健診等の母子保健事業に従事。H23年から市養育支援訪問員として要支援家庭へ訪問支援。H15年から母子衛生研究会相談員としてイオンで母子健康相談実施。H16年から公民館・児童ホーム・地区社会福祉協議会の依頼でベビーマッサージやマタニティヨーガ、女性の体の変化と健康講座、祖母になるための講座等行う。H16年からR1年中高生への性感染症健康教育講師、中学生と赤ちゃんふれあい事業講師を務める等、地域の母子保健推進への貢献は多大。

【岡崎市】瀬尾智子（医師）H15年からR5年市福祉事業団「若葉学園「めばえの家」嘱託医、H20年から緑の森こどもクリニック勤務（現院長）。小児科専門医として県や市の乳幼児健診、予防接種、虐待予防及び発達支援協力医として貢

献。H29年開設の市こども発達センターの支援体制の整備に関わるとともに、市早期発達支援システムにおいて「かかりつけ医ダブルフォロー」の観点から発達に関する支援のみならず虐待予防の視点からも子どもの安全確保に寄与。国際認定ラクテーションコンサルタントであり母乳育児や乳児栄養の知見も深い。R2年から市医師会学校保健担当理事、R6年から市特別支援教育連携協議会委員を務めるなど、こどもの健やかな成長のために多角的に尽力され、その功績は大きい。

【松山市】柳澤真弓（母推）H21年から14年にわたり従事したこんにちは赤ちゃん訪問では保護者の育児不安や悩みの傾聴、子育て支援の情報提供を行い、担当保健師と連携し要支援家庭をつなげる。H28年から市母推協議会ブロック理事として積極的に運営に携わり仲間の信頼も厚い。R6年から協議会の新たな活動である子育てひろばでの育児講座「母推さんTO遊ぼう」や地域子育て支援センターでの傾聴・見守り活動に従事。H16年から味酒地区民生児童委員、H24年から地区地域福祉活動計画策定委員会の構成メンバーとして活躍。地域に根差した母子保健活動を推進。

【中央推薦】新谷誠康（歯科医師）H20年から歯科大学小児歯科学講座教授、関連学会理事、R4年から同学会理事長として学会を牽引、小児の歯科口腔保健の充実と増進に貢献。関連学会や諸団体との連携を積極的に進め、歯科保健活動の推進、普及に尽力。日本歯科医師会と協働し、厚生労働省やこども家庭庁へ働きかけを重ね、5歳児健診における歯科の正式参入が決定、母子保健施策に大きな転機をもたらす。R5年から各ライフステージにおける歯科口腔保健事業の検討委員会委員として歯科保健指導マニュアルの作成に携わり、実践現場で活用される指導体制の整備にも貢献。

【中央推薦】松田秀雄（医師）H5年産婦人科医師となり、H12年より防衛医科大学校病院、H23年所沢市にクリニック開設。開設以来、延べ約8,700件の分娩に携わり、地域で安心・安全な周

産期医療を提供。H20年より日本産婦人科医会幹事、R4年より幹事長として医会事業全体を把握。厚生労働省はじめ関連諸団体と連携し母子と女性の生命健康のための事業推進、健やか親子21推進協議会の参加団体としても事業を推進。日本産科婦人科学会災害対策・復興委員会委員、県医師会医事紛争委員会委員、災害時小児周産期リエゾン連絡協議会幹事等、全国及び地域の母子保健の充実に寄与。

団体の部

【久留米市】一般社団法人福岡県助産師会久留米地区（地区理事・加藤陽子）H18年発足、H22年から市子育て交流プラザ「くるるん」で助産師相談会を毎月1回実施、継続的に訪れる母子も見られる。歯のはなし講演会では、両親が寄せた質問と歯科医師の回答をまとめ冊子を作成・配布。実演を盛り込み実用性があると好評。思春期保健出前講座では小・中学校、特別支援学校等で命や性の大切さを伝える。R1年から母子と助産師の交流の場として「助産師と語ろう」を企画・開催。活動ごとにテーマや手法を柔軟に工夫し、多職種や行政等との連携のもと、住民から身近で信頼される母子保健の担い手である。

【所沢市】三ヶ島地区母子愛育班（班長・谷本律子）S42年発足、市母子愛育会を組織する1団体である。R7年度は会員数225戸、愛育班員45人、分班（長）数12分班（人）で活動。毎月分班長会議で、地区事業の検討や情報交換を実施。児童館主催の子育てサロンに毎月協力、同館のあったか懇話会に年2回参加、子育て団体や保育園、学校と交流を深め、R8年から他児童館でも新規活動を予定。まちづくりセンター主催みかじまあそび王国あそび村に毎年協力、幼児から小学生が遊べる内容を試行錯誤しブースを運営。文化祭で赤ちゃん抱っこ体験や血圧測定、握力測定行う等、



母子保健推進員県協議会研修会の活動報告

地域の幅広い世代の健康づくりに貢献。

【都留市】都留市愛育会（代表・中村初美）H25年都留市愛育連合会が解散も有志が集い同年に再発足。赤ちゃん抱っこ体験事業では高校生と親子をつなぎ、命の教育と世代間交流の促進に貢献。R3年感染症対策研修を受けた班員の提案を契機に保育園・認定こども園で手洗い指導開始。歌に合わせた手洗いやイラスト入りの札、ブラックライトによる洗い残しの確認等工夫を凝らす。R3年からコロナ禍で希薄となったつながりを回復するため4か月児健診で手づくりのガーゼハンカチを配布。R6年から保健師と協働で園児への歯磨き指導開始。ペーパーサートを用いた啓発・指導ほか保護者へ歯ブラシをプレゼントするなど身近で工夫を凝らした活動で地域に貢献。

【新庄村】新庄村愛育委員会（会長・香山康永）S26年発足、23地区23名の委員で構成。各種健（検）診や母子クラブ「ひなどり会」等で子どもの見守り支援や健康づくり啓発を実施、親の受診や参加を促進。H25年から赤ちゃんおめでとう訪問事業（ブックスタート）にて出生した児の家を訪問、絵本と愛育委員紹介リーフレットを渡し早期から関係づくりを図る。栄養改善協議会と協働し子ども対象のイベントを毎年企画実施、R5年から親世代も楽しめるよう老人クラブや民生委員、飲食店等の協力を得て「子ども健康フェス」企画開催。中学生向け思春期ふれあい体験学習では赤ちゃん人形を使う沐浴体験実習等で命の尊さを伝える。

8020の里賞
(ロッセ賞)

今年度のキーワードは連携、継続、新規性

むし歯予防や食育など習慣性高いものは特に、乳幼児期からの取り組みが重要であり、またそれには、行政や専門職と連携した地域での取り組みが欠かせない。

本年度の受賞活動(作品)の特徴は、連携、継続、新規性が挙げられる。親子の健康づくりに関係の深い自治体の複数の部署、関係機関と連携しプロジェクトチームを立ち上げての取り組み、長年にわたり改良を加えながら継続して取り組んでいる活動、また今般は、動画を駆使した取り組みが3団体(作詞・作曲・振付・出演とも会員が行い収録編集したもの(長浜市)、動きを加えたスライドに声を当てたもの(大阪母子医療センター)、アニメーションのYoutube動画(雲南市))あったほか、いずれも力作ぞろいであった。受賞団体は以下のとおり。

【優秀賞】

1. 鹿沼歯科衛生士会(栃木県)
大歯牙模型と下顎乳歯模型、クッション型歯牙、萌出歯牙模型とフリップ、顔つき模型ター坊、指導用フリップ、パネル
2. 仕上げみがきプロジェクトチーム(島根県雲南市)にゅーちゃん&アワワの歯みがきタイム(動画)他課、関係団体から成るプロジェクトチームを結成し、仕上げみがきと愛着形成を組み入れたアニメーションのYoutube動画を作成、周知チラシの裏には同内容の絵本が作れるよう工夫。動画は、市や関係団体のポータルサイトに掲載。



鹿沼歯科衛生士会の手づくり教材は改良を加えた秀逸なものばかり



雲南市(島根県)アニメーション動画は仕上げ磨きに愛着形成を併せて



大阪母子医療センター栄養管理室作成の動画から



長浜市(滋賀県)の動画はヘビメタ調の曲に併せて

タルサイトに掲載。

【佳作賞】

1. 滑川市母子保健推進員協議会(富山県)
歯がキラリン・ピッカピカ(紙芝居・エプロンシアター)歯科衛生士の会員を中心に1歳児とその親向けの紙芝居を作成。令和6年度からはエプロンシアターも。
2. 大阪母子医療センター栄養管理室(大阪府)おべんとうマンの旅～大阪産(もん)～(寸劇スライド)おべんと

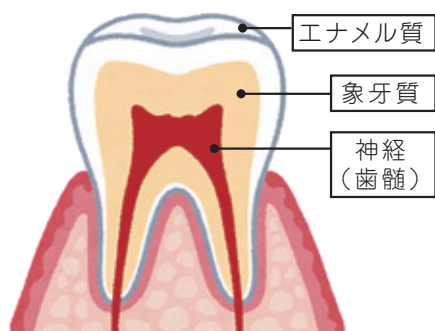
うマンが5つの食材グループと出会いながら、べんた君にお弁当を届ける。途中に専門職による解説も。スライドの動きに併せセリフを当てる。

【奨励賞】①茂原市保健センター(千葉県)「ワンちゃんとミーちゃんの食べたらはみがき」(寸劇・手づくり教材)、②豊田市母子保健推進員の会(愛知県)乳歯の歯みがき「はじめの一步」(寸劇・手づくり教材)、③長浜市健康推進課(滋賀県)「お茶でバイバイ! ムシバイキン」(オリジナルソングと動画)、④橋本市子育て応援課(和歌山県)「にこにこ歯みがき教室」の取り組み、教室案内漫画のポスター

紙上セミナー SEMINAR 8020の星づくり

茶色の歯を見つけたことはありませんか？

歯っていつ頃できるの？（表1）



（図1）歯の構造

歯はコラーゲンというタンパク質でできた繊維の網に、カルシウム、リンなどのミネラルが結合して作られます。永久歯でも中切歯・側切歯・犬歯・第1大臼歯は、母親のお腹の中、あるいは、授乳期にすでに歯胚の形成が始まっています。その中で、エナメル質は、体の中で骨よりも一番硬い組織で、モース硬度7と水晶のように固く、鎧や盾



た道具で削らないといけなくらい固いのです。

エナメル質形成不全症とは（図2）

お子さんの歯をよくみると、一見、初期のむし歯のような透明感のない白いスポットやクリーム色から褐（茶）色をしている歯を見つけることはありませんか。これは、歯の表面を覆っているエナメル質がもろくなっている、エナメル質形成不全症という歯の先天異常のひとつです。

そのエナメル質の内側には軟らかい象牙質があり、さらに内側にはいわゆる神経（歯髄）が通っています。象牙質や神経が健康でいられるのは、エナメル質に守られているおかげで、噛んだ時に強い力がかかっても歯が壊れないように、そして象牙質や神経にバイ菌が入らないよ

うに守ってくれています。

エナメル質形成不全の歯は、軽度か重度かによってもエナメル質の強度に違いはありますが、エナメル質の密度が粗く、歯が欠けたり、すり減りが早かったり、特に強い力のかかる奥歯は崩れやすいです。また、むし歯に移行しやすく、進行が速い等、歯の防御機能が先天的に弱くなっています。

原因は？

原因は、お子さんの歯みがきのせいでも、ご家庭での仕上げみがきのせいでもありません。歯が顎の中で育っている時に、エナメル質が正しく作られなかったことによって起きると考えられています。

こうなる原因は、遺伝や全身的な原因として、母体への障害、栄養不足・発熱・内分泌異常、早産等。部分的な原因として、生え変わる前の乳歯の炎症（進行したむし歯から）・外傷等とされていますが、はっきりしない場合が多いのです。

エナメル質形成不全症が見られるのは、多くの場合永久歯で、乳歯ではまれです。その中で、特に注目を

（表1）顎骨の中で歯が作られる時期

歯種	歯胚形成 (歯ができ始める時期)	石灰化開始 (歯が固くなる時期)	歯冠完成 (歯の頭の完成)
中切歯	胎生5～5.25か月	3～4か月	4～5歳
側切歯	胎生5～5.2か月	上 10～12か月	4～5歳
		下 3～4か月	
犬歯	胎生5.5～6か月	4～5か月	6～7歳
第1小臼歯	出生時	1.5～2歳	5～6歳
第2小臼歯	7.5～8か月	2～2.5歳	6～7歳
第1大臼歯	胎生3.5～4か月	出生時	2.5～3歳
第2大臼歯	8.5～9か月	2.5～3歳	7～8歳

(Schour&Massler.1940より)

浴びているのが、主に永久歯の前歯と6歳臼歯に発症することを特徴とした、原因が不明なMIH (Molar Incisor Hypomineralization) です。重症の場合は、エナメル質だけではなく、その中の象牙質におよぶこともあります。決して珍しいものではなく、2012年の調査では、約11.9%の割合、10人に1人に認められることがわかりました。

治療方法と予防は？

エナメル質形成不全症の歯であっても、歯科医院での歯みがきの指導、歯ブラシ・歯磨剤の選択、フッ化物の応用等をうけ、家庭でもブラークコントロールを行い、予防対策を行う。また、むし歯のようにすぐに本格的治療に入るのではなく、患者さんの年齢や症例に応

じた対策を取る必要があります。歯科医院では、小さな処置で歯をなるべく長く保つ等、長期的にお口の健康を支えていくための知識と技術を持っていますので、管理期間が長期にわたりますが中断せずに通院し続けてください。

乳歯の頃からお子さんの定期的なメインテナンスをはじめ、大切な永久歯を歯科医師、歯科衛生士さんといっしょに守っていきましょう。

最後に

むし歯予防の進歩により、むし歯を経験しないお子さんが増えています。その中で、「お子さんのむし歯予防は親の責任」と捉え、「予防は当たり前」というプレッシャーを感じ、「歯科医院で教わったとおりに毎晩仕上げみがきを

しているのに」、兄弟でも「この子だけなぜ、同じやり方でむし歯予防をしているのに」等とご家庭で心配されることもあるの

ではないでしょうか。もしかすると、先天的にエナメル質が弱いからなのかもしれません。エナメル質形成不全症の歯を、ご家庭の努力だけで守るのはたいへん難しいものです。

お子さんのむし歯の悩みはご家庭で抱え込まずに、予防に熱心な歯科医院を見つけてぜひ相談してください。お子さんのお口の健康のため、歯科医師、歯科衛生士の力を借りて乗り切りましょう。

また、エナメル質形成不全症であるからといって特に身体に影響がある訳ではなく、重篤な症状が現れるわけはありませんので、その心配は必要ありません。

<参考文献>

杉山精一：エナメル質形成不全症(MIH)とは？nico,クインテッセンス出版会社,2015.7
新谷誠康：歯質の形成障害とMIH,小児歯科臨床24(9),6-12,2019
斎藤正人：MIHの全国調査結果,小児歯科臨床24(9),13-20,2019

公益社団法人 日本歯科医師会

地域保健委員会委員 陣内 重雄



(図2) 母子健康手帳「歯の健康診査」記載マニュアル
一 歯の形態・色調の異常(あり・なし)の考え方と判断について
日本小児歯科学会 HP

8020 ひとくちメモ

明らかな結論は出ていませんが、母乳を与えなかった小児のエナメル質形成不全症(MIH)の有病率よりも、母乳を与えた小児の場合、母乳を与えた期間が長くなるほどMIH有病率の方が高かったという結果から、原因が、母親のビタミンD欠乏症によるものではないかとの指摘があります。母親の栄養不足で母体が

エナメル質形成不全は母乳に原因??

ビタミンD 欠乏症だったり、あるいは、ビタミンD が欠乏している母乳で育つことにより乳歯・永久歯の成長が阻害され、エナメル質形成不全の原因となっているのではないかとのことです。

一方で、ビタミンDは食事から得ることも出来ますが、その他に日光によって皮膚から生成されることから、

日照時間が短く、紫外線量が少ない北の地域でMIHの有病率が高いのではないかと仮説を立て調査が行われましたが、有病率は西高東低と、想定とは逆の結果となりました。

妊娠中や新生児期における適切な栄養摂取はこのことに限らず重要なので、気になる方は、かかりつけの産科、小児科へ相談してみしょう。

健やか親子 21 全国大会

併設本会議全国集会、今年度はオンラインで

今年度の「健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会)」は、式典のみ対面で行い、特別講演、シンポジウム、主催団体による併設集会等はオンラインにて行います。本会議と全国母子保健推進員等連絡協議会が共催にて行う『母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会』は、11月28日(金)13:00以降、こども家庭庁の「健やか親子21全国大会」特設サイトのYoutubeチャンネルおよび本会議ホームページでご紹介するURLからご視聴いただけます。

今年度は、本紙9ページで紹介した「8020の里賞」受賞団体の活動の紹介と講評、こどもの口腔機能の発達についての講演では、座り方や前髪の長さなど、生活の中の見直しが口腔機能の発達に大きくかわることなどをお話しくださいます。特別講演では、こども家庭庁から最新の母子保健施策の解説、さらにそれを自治体の現場でどのように生かしていくかについて考えます。すぐに生かせる情報が満載です。ぜひ、ご視聴ください。

<プログラム>

講 評 「8020の里賞－(ロッテ賞)」受賞活動の紹介および講評

講評 公益社団法人 日本歯科医師会 常務理事 山本 秀樹

講 話 「明日から活かせる、生活の中で育むこどもの口腔機能」

神奈川歯科大学大学院歯学研究科小児歯科学分野 教授 仲井 雪絵

特別講演 「母子保健施策の動向」

こども家庭庁成育局母子保健課生殖補助医療 係長 臼井 麗

シンポジウム 「今、求められる伴走型支援とは」

基調講演／座長 公益社団法人 母子保健推進会議 会長 佐藤 拓代

事例報告①「妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援

－伊達市版ネウボラ事業－」

伊達市教育委員会こども部ネウボラ推進課副主幹兼

ネウボラ推進係長兼統括支援員 村田 桂

事例報告②「保護者の笑顔のために～下妻市母子保健推進員協議会の活動」

下妻市保健福祉部健康づくり課 課長補佐 湯本 陽子

下妻市母子保健推進員協議会 会長 中山 まさ江

ディスカッション(計3時間)

「気持ちに寄り添うスキルアップセミナー」のご案内

これまで20年余実施してきた「子育て世代支援者養成セミナー」を、2日間のプログラムは出席しづらいとの受講者の声から、内容をレベルアップしつつ1日に凝縮しました(詳細は別紙実施要項をご覧ください)。受講後のアンケートからは「寄り添い支援はできていると思っていたが、はっとすることが多々あった。今後に生かしたい」等の意見もありました。皆様のご受講をお待ちしています。

編集帖

令和7年度健やか親子21全国大会が開催されます。功労者表彰を受けられる方々には、心よりお祝い申し上げます。ご功績の一端を本紙2～8ページで紹介していますが、仕事、活動として行うだけでなく、そこに熱意、親子を想う心がなければできないことが察せられ、敬意を表したいと存じます。

本号では、「8020の里賞」の各受賞団体の活動も一部紹介しています(9頁・上記全国集会のオンライン配信でも紹介)。

今年度は、審査基準の一つでもある“連携”を重視した活動が多くみられました。動画にも3団体が挑戦。アニメーション動画を作成したり、作詞作曲・振付から出演までメンバーが行うなど、いずれも甲乙つけ難い活動ですので媒体に目にとられますが、それらの自治体では、複数の部署、関係機関と連携しプロジェクトチームを立ち上げるなど“連携”を重視しているからこそその活動、媒体でした。地域活動の原点を見る思いです。(Y)



発行：公益社団法人 母子保健推進会議
発行人：鏈溝和子 編集人：高橋睦子
協力：全国母子保健推進員等連絡協議会

東京都文京区音羽1-19-18
東京都助産師会館 4F (〒112-0013)
TEL.03-6902-2311 FAX.03-6902-2331
Eメール bosui@bosui.or.jp
URL <https://www.bosui.or.jp>

年間購読料 2,640 円 (税別込み)
母子保健推進員等特別価格
年間購読料 1,320 円 (税別込み)
郵便振替口座 00120-9-612578